

百人一首夢中 次は入賞する

安楽小学校四年 坂本 明音

私の一学期の一番の思い出は、百人一首です。初めて百人一首をしたときは、取り札をさがすのに必死でしたが、やつていくうちにこつをつかみ、上の句を聞いただけで、すぐに札がとれるようになりました。

でも、学級での第一回百人一首大会では、入賞をのがしてしまいました。悔しくてたまらなかつたです。

するとお母さんが「そんなにくやしいんだつたら、本を買って勉強すればいいよ」と言つて、本を買ってくれました。そこには、歌の意味や覚え方が書いてありました。

それを読むと面白くてますます夢中になりました。次の大会では入賞できそうな気がします。

ほかに夢中になつたことは、漢字の学習です。難しい漢字を覚えるのに苦労しましたが、テストで満点を取れたときは、とてもうれしかつたです。

できないことをあきらめずにやればできるということを学びました。

令和七年八月十八日(月)

南日本新聞『若い目』掲載